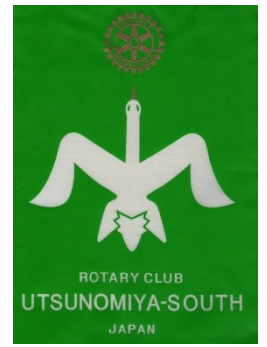


2013-2014 年度 第 1595 回例会 宇都宮南ロータリークラブ会報

会長：小塚照夫 幹事：中野智之 会報委員長：佐々木隆
 例会場及び例会日：ホテルニューイタヤ ≪水曜 12：30≫
 事務所：宇都宮市大通り 2-4-6 ホテルニューイタヤ内
 TEL:028-635-5511 (ホテルニューイタヤ)



8 月 第 3 例会

2014 年 8 月 27 日 (水)



会員数 47 名 出席 47 名



司 会

角田充由 S.A.A

- ロータリーソング「それでこそロータリー」



会長挨拶

小塚照夫 会長

皆さんこんにちは。

蝉の声が消えて虫の声が聞こえる小さな秋が見えて参りました。今年は異常気象で、あちこちで想定外の事が起こっております。被害に遭われた方々には、心よりお見舞い申し上げます。

本日は、我が人生を語る第 2 弾としまして、「ロシアの大地に虎を追って」と題して、写真家の福田俊司様を卓話にお招きしております。ご静聴の程、よろしくお願い致します。



幹事報告

中野智之 幹事

§ ロータリー囲碁同好会より、全国囲碁大会のご案内が届いております。参加ご希望の方は幹事までお申し出下さい。(回覧)

§ 米山梅吉記念館の館報が届いております。(回覧)



スマイル BOX 委員会報告

青木克浩 委員長

§ 小塚照夫会長 先日の納涼家族会も多くの参加者を戴き、盛大に行うことが出来ました。親睦委員会の皆様、ご苦労様でした。

§ 藤井康夫副会長 先週の納涼家族会ご苦労様でした。スマイルします。

§ 中野智之幹事 今日も元気にスマイルします。

§ 笠原正人会員 来月のロータリー野球大会は恒例の兄弟会で出場出来ません。私が活躍する場を失い、非常に残念でなりません。笠原さんが出場出来なくて負けましたなどと言わないように願います。

§ 村上芳弘会員 宇都宮さつきロータリークラブの認証状伝達式が 10 月 13 日(月)に決定致しま

した。出席よろしくね。8月25日(月)はさつきロータリークラブの納涼家族会に参加して来ました。

- § 仲田俊夫会員 昨日、妻の誕生日のお花を戴きました。ありがとうございます。妻も大変喜んでおりました。
- § 鈴木秀明会員 先日、医者で塩分とアルコールを抑えるように言われました。皆様も健康に気を付けましょう。
- § 高久和男会員 昨夜は寒い夜でした。心もなぜか寒い夜でした。
- § 村田宏明会員 家族会では大変お世話になりました。山本委員長の心づくし、料理もワインも美味しかった！！
- § 田中正夫会員 先日、立山黒部アルペンルートを始めとする路線バス・ローカル線の旅をして来ました。
- § 田口久雄会員 暑い暑いと言っていたのもつかの間、涼しい日が続いていますが、広島をはじめ全国で雨による災害が多発しています。この場をお借りしてお見舞い申し上げます。
- § 小林 裕会員 第2回私募債を発行しました。国土交通省から優良業務表彰を受けました。
- § 山本敬三会員 スマイルに協力を！！
- § 岩本一男会員 久しぶりの例会、楽しみに来ました。またよろしく願い致します。
- § 酒澤伸二会員 野球部ナイターは全勝することが出来ました。本大会頑張ります。
- § 磯田 賢会員 先日お盆休み中、家族で大谷記念館に行ってきました。皆えらい感激したようで、小6の息子の自由研究の題材になったり、記念館で撮影された映画を観に行ったりと、プチ宇都宮ブームです。今度は妻の両親も行きたいと言い出し、大ツアーになりそうです。宇都宮ファンを増やすことが出来て嬉しくてスマイルさせていただきます。
- § 青木克浩会員 契約と重なり、先週の家族会に出席できず申し訳ありませんでした。次回は必ず女房と出席させていただきます。
- § 南 RC 野球部 先週木曜日の試合で本年度のナイターリーグ戦を終了致しました。

内訳ですが、

対 西 RC 22 対 0
 対 90RC 7 対 0
 対 陽東 RC 16 対 7
 対 陽北 RC 14 対 8
 平均年齢 53.8 歳



一試合平均得点 14.75 点 平均失点 3.75 点

という内容で、我が南ロータリークラブが全勝優勝をさせていただきました！

これも偏にクラブ会員の皆様方の温かいご声援があつての事と深く感謝しております。この勢いで、9月14日の本大会に臨む所存でございますので、引き続き熱きご声援を賜りたくスマイル致します。

多くの会員の皆様にご協力戴きありがとうございました。 今週の金額 28,000 円



2015—2016 年度 1 年交換留学生の募集のお知らせが届いております。派遣国はアジア・アメリカ・ヨーロッパで期間は 8 月より 1 年間です。締切 9 月 25 日必着ですので、ご推薦の方がいらっしゃる会員は私鈴木までお申し出下さい。



写真家 福田俊司 様



「ロシアの大地に虎を追って」

昨年 10 月にロンドンで、ロシアで一番のカメラマンであるセハルゲイ・ガルシコワに会いました。彼はロシアの銀行の頭取を辞めてから一切のビジネスから手を引き、ネイチャーフォトグラファーになりました。彼は写真が自分の生きがいと言っていました。私も 60 歳までビジネスをしたが、今は写真を Work として生きています。今回はその話を致します。

(卓話者より戴きました原稿をそのまま掲載しております)

世界に二大 Nature Photo、つまり自然写真コンテスト。

一つはアメリカの Natures Best。

映画“Night Musuem”の舞台になったスミソニアン博物館主催。

あと一つがイギリスの Wildlife Photographer of the Year. 大英博物館の自然部門が独立した王立自然史博物館主催。

しかし Wildlife Photographer of the Year コンテストは Natures Best よりも応募作品が二倍以上、歴史も長く、このコンテストに受賞することは世界中のネイチャーフォトグラファーにとって最高の勲章。このコンテストで日本人として初めて特別賞を受賞し、遅まきながら還暦を過ぎて、欧米、アジア、南半球と発表の扉が世界へ開かれた。

なかでも嬉しいのは、ネイチャーフォトが科学として認知されていること、あの小保方さんで有名なイギリスの科学誌 Nature でも取り上げられたことです。

これから、受賞作にまつわる話をしたいと思います。

シベリア通いは、1990 年から今年で 25 年目を迎えます。この地図で赤く塗ったところが、その取材地です。シベリアの取材日数は 1,800 日を越え、毎年 50 日～180 日間。

しばしばロシア人が心配して、「福田こんなに留守にして、家族は大丈夫か？奥さんは心配しないのか？」わたしは、いつもこう答えます。

「日本には良い諺がある。“亭主元気で留守が良い”」ロシアにもあるそうです。

“亭主にするなら、船乗り”

25 年間のシベリア取材では、様々なことがあった。ホッキョクグマに脚を叩かれて絶望したり、マフィ

アが接触してきたり、KGBにスパイと疑われたり、テロリストに間違われて、銃を突きつけられたり…当時はソ連崩壊の真ただ中で、ロシア人社会も、ロシア経済も、混乱の渦の中にありました。いつもトラブル続きでしたが、それでもシベリア取材を止めなかったのは、手付かずの大自然が残っていたこと、世界に先駆けて、オリジナルな仕事ができると思ったからです。

なかでも、シベリアのワイルドライフで、最大のヒーローがアムールトラ（別名シベリアトラ）です。ベンガルトラ、ジャワトラ等、幾つかのトラがいますが、アムールトラが日本人には最も馴染み深いトラ。

加藤清正が退治した朝鮮トラや、満州トラもアムールトラ。アムールトラは私達の日常会話にも、“虎穴に入らずんば虎子を得ず”、“虎視眈々”、“虎の尾を踏む”等、頻繁に出てきます。

しかし、今では朝鮮半島から絶滅し、ほぼ中国からも姿を消し、ロシアの沿海地方、ハバロフスク地に生き残るのみ。

アムールトラの最大の特徴

それは、最も美しく、世界最大の野生ネコ。百獣の王ライオンよりも大きく、インドのベンガルトラよりも一回りも大きい、まさに陸上最強の肉食獣。

アムールトラが棲んでいる処は、日本から500キロもありません。例えば宇都宮から秋田ぐらいの処に、全長3.2メートル、体重250キロもある、世界最強の野生ネコが徘徊。

それを想像するだけで、胸がワクワクします。

ところが、野生のアムールトラを撮った本物の作品はほとんどなく、ましてファインダーを通して、つまり目視で撮影した作品はありませんでした。

動物写真家として、これほど闘志を奮い立たせるターゲットはない。

正直に告白すると、今回の撮影を含めても、私が野生のアムールトラに出逢ったのは2回。

この数字が少ないか、あるいは多いかは、私の話を聞いてから、皆さん、ご自分で判断してください。

WWF（世界自然保護基金）では、アムールトラの生息数を350頭～400頭と見積もっていますが、現場の研究者によれば、どうやら300頭を割っている。私も、そう感じます。

ところで、アムールトラが棲息する自然環境は、日本の森と驚くほど良く似る。

緯度は青森市や札幌辺りだし、日本から500キロもないのだから、当たり前と言えば、当たり前…

しかし、ここには大陸性の大型肉食獣、アムールヒョウ…勿論、アムールトラ。

アムールトラの行動範囲はとてつもなく広い。

雌のテリトリー200～400平方キロメートル(宇都宮市全域の面積)

雄のテリトリー600平方キロメートル(東京23区の面積)

警戒心は生半可じゃない。密林では、縦じま模様が完璧なカモフラージュ。

最初に出遭ったとき、アムールトラはたった6～7メートル先に潜んでいたのに、気付かなかった。「アムールトラを一回見たということは、アムールトラに千回見られたこと」

アムールトラに出逢うチャンスが一番多いのは、自然保護区の監視員。なにしろ、毎日アムールトラの

生息地を巡回する・・・

ヴィタリー・・・20年間で7回。トーリャ：12年間で2回、唸り声2回。オレック・・・33年間で5～6回
リディア：34年間で1回。

まるで幻のような、野生のアムールトラを撮影するために、広大な密林を歩き、あるいはバギー車に乗り、アムールトラの痕跡・・・足跡、糞、マーキングを調べて、アムールトラの通り道を探し出す。

動物写真家の醍醐味

自分がハンター、あるいは探偵になったつもりで・・・このようにして見つけたポイント、ポイントに自動撮影カメラを設置して、2年間で4カット撮影成功。

自動カメラ撮影が成功すると、今度は、自分の目でアムールトラを見て、カメラのファインダーを覗きながら、自分の指でシャッターを押したくなります。これはごく自然な気持ち。この話を、私の取材協力者メドヴェージェフにしたら、「一冬かけても、成功の確率は10%もない」とけんもほろろ。しかし、このアムールトラを撮影で、自分の写真人生を凝縮させたいと決意していたので、喰い下がって協力させた。

私が選んだ場所は、『бухта Опасная』（危険な湾）。この湾の砂浜でしばしばトラの足跡を見かけた。ここならば、トラの姿を見逃す事はない。

アムールトラを待つには、こんな姿ではできません。安全と健康を維持するために、湾を見下ろす急斜面に、寝泊りができる撮影小屋をつくった。

秋のあいだにつくった撮影小屋。長さ：2.3m、幅：1.5m、深さ：1.4m、まるで棺桶の中？

寝ている間、不意に襲われない為に、9,000ボルトが流れる電気柵を張りめぐらす。

撮影機材、食料、水、生活用品を運び込んで、ひたすらアムールトラを待ち続けた。

死の季節：マイナス30度ほとんど生き物の気配がない。それでもゴマアザラシ、オジロワシ、オオワシ・・・単調な日々、還暦を過ぎたから耐えられた。年寄りには時間が早く過ぎる（若者にはできない）自分は病気で入院してベットにいと自己暗示。

長いあいだ、狭い空間で、毎日、毎日、変化のない日々を過ごすこと、気力が萎えて、精神状態が不安定。協力者メドヴェージェフと互いに口を利かなくなる。

44日目：落語で夜中に「ヒッ、ヒッ、ヒッ」45日目：新月でついに雪が降りだす。新月と満月は天候が崩れる。新雪はハンティングのチャンス。ふたたびマーキング。47日目：雪がやむ。50日目：(2012年2月27日)寒さで目が覚めると、カラスが騒々しい。写真挿入。窓をゆっくりと開けると、150m先にアムールトラが。それから24日間待ち続けて、合計74日間。チャンスは1回だけだった。

しかし、この1枚に、今まで培ってきたロシアの人脈、ロシア語、サバイバル術、気力、体力、写真哲学、撮影テクニック、それらすべてを注ぐことができた。私にとって、人生最高の瞬間！



出席報告 嶋田辰雄 委員長

会員数 47名 前々回 8月13日
 出席数 29名 訂正率 特別休会
 欠席数 18名
 出席率 69.05%

次回例会

9月3日(水) 外部卓話
 音羽レストラン 音羽和紀様
 「我が人生を語る」



プログラム

月 日	時 間	内 容
9月3日(水)	12:30~13:30	外部卓話：音羽 和紀 様 音羽レストランシェフ
9月10日(水)	12:30~13:30	外部卓話：半田病院副委員長 「経営者の健康管理について」
9月17日(水)	12:30~13:30	外部卓話：田巻 秀樹 様 「火焰太鼓山車復活巡業」
9月24日(水)	休会	21日(日)地区大会振替休会